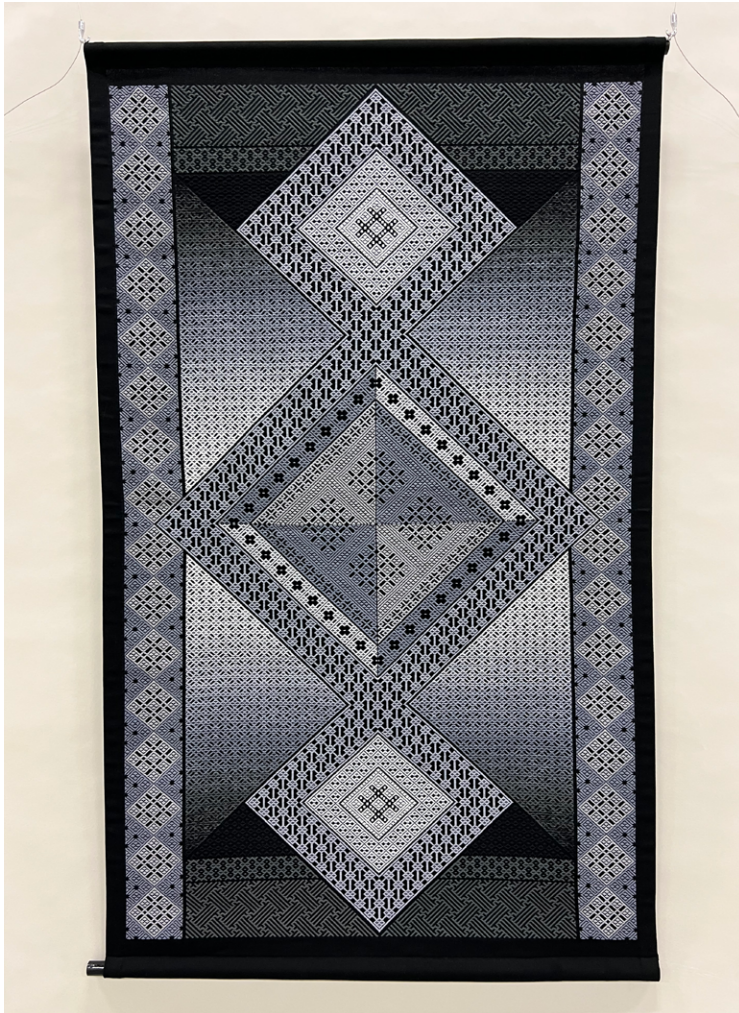


2022 vol.208 OCT

SOUSAKU

創作手工芸



公益財団法人日本手工芸作家連合会

分岐点

公益財団法人日本手工芸作家連合会

会長 井上 美沙子



もともと21世紀は、情報化社会から超スマート社会へと向かう人類の社会的分かれ道といえる分岐点でした。現在の新型コロナウイルスの出現により、それがより駿足に、一層の強度を増し世界情勢や価値観を変化させていっております。グローバル化によりこの目には見えない病原菌の感染拡大は速く、人々に新たな生活行動様式を強い、今までとは違った価値観を生み出すことを余儀なくさせております。

人類の誕生後長い期間、自然との共生による狩猟社会（ソサエティ（Society）1.0）があり、その後紀元前13000年ころに農耕社会（ソサエティ（Society）2.0）となり、灌漑技術の開発に伴い、人々は定住化した生活を長く続けておりました。18世紀にはいり、科学の発明や発見がなされ、蒸気機関車の発明により、動力が人力から馬力そして蒸気へと変化し、その後、電力・原子力へと目覚ましく進化して工業社会（ソサエティ（Society）3.0）を迎えました。英国でなされた産業革命が大量生産、大量消費の社会を可能とし、20世紀後半のコンピューターの発明により情報化社会（ソサエティ（Society）4.0）が出現。大量の情報と流通がなされ、瞬時に情報が世界に発信されることが可能となり、どんな個人でも世界に向けて発信できる環境になりました。

このように急速に進化した社会は、地球温暖化や格差社会等という沢山の弊害を生み、先に述べた分岐点へと至ったのです。新しい未来社会（ソサエティ（Society）5.0）は21世紀初頭に経済発展と社会的課題の解決との両立を望み、一人ひとりの幸福を達成する社会を目指したものです。気候変動、食料、健康、医療、エネルギー、安全、貧富の格差等、未来が見えづらい不安な社会は人間関係が希薄になり孤立感を増大させます。このような時代こそ人間の生命の泉のほとばしりである手工芸文化を通じた身近な人間関係を支えとした交わりが、生きる意義を与えてくれましょう。一般人による草の根の文化活動が、世界を救済する一つのありようです。各個人個人の心の再生は全体の不遇感からの脱却へと繋がってまいります。この活動こそ手工芸作家連合会の世界への発信であり貢献となりましょう。それは新しい価値を生み出し、自然と人間が共生する社会の実現を求めています。

コロナ禍の影響により本会の第53・54回創作手工芸展は、2年続けて誠に残念なことに中止となっております。しかし本年は皆様のご協力により例年通りの質の良い応募作品と篤心者の方々による特別出品作品の展示により、多くの来場者に恵まれ無事好評のうちに閉幕されました。この第55回創作手工芸展は、第7代会長・花村邦昭氏により10数年間牽引されてきた本会の素晴らしい歴史に華を添え、会員のパッションの篤い想いが2年間の空白を感じさせない見事なものとなりました。

本年度より花村会長に代わり、第8代会長となりました井上美沙子は、未熟者ではございますが、本会の創設者大妻コタカの志を継承し、歴代の会長に学び、皆様の暖かなご指導と、ご協力により本会を世界に貢献できる発信源となるよう専心するつもりでございます。どうぞ従前どおりのご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

会長退任のご挨拶

公益財団法人日本手工芸作家連合会

顧問 花村 邦 昭



2022年6月をもちまして、8年間務めさせて頂きました会長職を任期満了により退任いたしました。この間、協力企業様および会員の皆様から賜りました多大なご支援とご協力に対し、改めまして衷心より厚く御礼を申し上げます。私自身もこの間お陰様で楽しい日々を過ごさせて頂きました。ありがとうございました。後任の会長は大妻女子大学名誉教授・大妻学院理事の井上美沙子女史です。私同様よろしくお願い申し上げます。

退任に当たり本誌の貴重な紙面をお借りして、日本の手工芸文化に懸ける私の想いの一端を述べさせて頂きます。

いま「国のかたち」が崩れかけています。これまで「国のかたち」を支えてきた「信頼」という国民的美質が見失われようとしています。昔は、「職人」には「職人魂」が、「商人」には「商人道」がありました。「会社」では「企業倫理」「職業道德」が社員教育の基本でした。「家庭」でも裁縫・編物・刺繍など「手仕事・手芸」を通して生き方の基本が子々孫々大切に受け継がれて来ました。そこでは、<「糸」の一筋々々、

「針」の一刺々々もけっしておろそかにするな、何事にも心を籠めよ、誤魔化しや手抜きは必ず作品に現われる、つねに手順を守り正直であれ、個性と創造性を大切にせよ、感謝の想いを忘れるな、それこそが日常を律する生活の基礎なのだ>と教えられました。そこで培われた「ウソ・イツワりのない真摯な生き方」への「信頼」が国民同士を強い「絆」で結び合わせて来たのです。わが国が世界に誇る「ものづくり文化」を基底的に支えて来たのもこの手工芸精神でした。

国民相互の「信頼」を揺るがすような事件があちこちに見られる昨今ですが、幸いにも「手工芸文化」は、わが国の勝れた伝統として全国津々浦々に、各家庭の隅々に、いまでも豊かに育まれ継承されています。この素晴らしい「ものづくり文化」の源泉をわれわれの世代で涸らしたり、細らせたりするようなことがあっては先人たちおよび後世の人々に申し訳が立ちません。<美しい「物のかたち」の造形、麗しい「生きるかたち」の成形、誇らしい「国のかたち」の創成>…われわれ「公益財団法人 日本手工芸作家連合会」の想いと志もそこにあります。

会員の皆様がこれからも、使命感をもって、充実した活動を多様に、そして楽しく、展開して下さるようお願いしております。私も、これからは顧問として、皆様のご活動を陰ながらお支えして参ります。

最後になりましたが、会員の皆様のご健勝と、本連合会のますますの発展を祈念申し上げて会長退任の挨拶とさせて頂きます。

第55回創作手工芸展講評



審査委員長
大矢 紀
(日本美術院同人)

コロナ禍騒動が3年目に入りました。

いまだ7波がどうのと少しもおとろえず本当に困ったものです。その大変な中、第55回展が開催されました。出品数は少し少なくなりましたが、少数精鋭の感があります。

この2年間それぞれの人々が、じっくりと自身の仕事に集中されたのではないのでしょうか。

●文部科学大臣賞 「孟冬」 浜島 亜由子

人間の色彩に対する識別は、色相と彩度に比べて、明度の差異に鋭い感覚を持っている。白と黒の精緻を極めた微妙な段階を駆使し、独創的な構成力で仕上げた浜島さんの作品は、北国の厳しい冬の生活に立ち向かう中で生まれたこざん刺しならではの緊張感にあふれた秀作である。

共立女子大学名誉教授 伊藤 紀之

●東京都議会議長賞 「白と黒」 松本 由伎子

白と黒は対照的で印象的な色です。白は清純なイメージと黒は妖艶なイメージを与えてくれます。個性的な6個の帽子は様々な素材とアイデアが豊富であり楽しませてくれます。室内を飾るオブジェにもなり、身に付けた時の装いも想像させてくれる夢のある作品です。

漆芸作家 田口 義明

●審査委員長賞 「華やぐ白い花々」 加藤 理香

審査会場では壁掛けの大きな目立つ刺し子作品にくらべると少し地味である。しかしよく見ると仲々どうして作者が「華やぐ白い花々」と命名した様に花の部分は勿論のこと、それを取り巻く文様、花形、可憐な花や葉、十字文様など繊細、神経がいきとどいている好ましい作品である。

公財) 日本美術院同人
公財) 川崎市文化財団理事 大矢 紀

●大妻コタカ賞 「イスラエルの窓」 桜庭 あい子

七宝繋ぎの内に異なる刺し子文様32種を表し、周囲に紋章形の花卉を散らす。伝統的な刺し子特有の線とモノトーンの世界に、イギリスで求めた布をパッチワークに持ち込み曲線と彩を加える。イスラエルを通して垣間見える異文化交流の世界を表現した力作である。

日本女子大学名誉教授
公財) ポーラ伝統文化振興財団理事 小笠原 小枝

●日本手工芸作家連合会会長賞 「しばれる夜」

渡部 晶子

津軽の「しばれる夜」の澄明な厳しさが「引き締まった構図」によって見事に表現されています。

大妻コタカは「手工芸の根本は、手順を踏まえ、手抜きせず、一針一刺しに心を込めること」と言いましたが、本作品はその手本のように思えます。

公財) 日本手工芸作家連合会会長 花村 邦昭

奨励賞「牡丹と孔雀のコラボレーション」猪股 洋子 非常に華やかな手描友禅の作品で、牡丹の写生に裏付けされており一度着物にして見てみたいものである。

佳作「WARABE FANTASY」福田 桜 かつては日本の各地で見られたなつかしい情景である。先祖や家族、友人、知人の霊をしのび慰める流燈は、かつては絵画のモチーフによく使われたものである。「夜の帳」飯塚 貞子 黒を基調とし夜の富士と天の川、星座を配しロマン豊かな作品に漆工芸で仕上げる。「森の精霊」吉田 麻利子 非常に斬新なモチーフであり構成でもある。その形態のユニーク性にも目をみはる。「妖精たちの囁き」藪本 一翠 繭を使つての作品。今回は又視点を変えられての作品。次回も楽しみである。

技術賞「かの日散歩道」黒澤 勝子 津軽こざん刺しでのしっかりとした作品である。「マクラメドレス2022」井上 昌恵 網の様なしゃれた糸を編み上品な色調に仕上げている。「ビレネー」内田 桃子 色彩がシックであり、文様もひかえめでありながらおしゃれで仕事ぶりもさすが。「わ遊び」池田 節子 初め見たときは紺色の中の模様がみえず、よく見ると大変な技術で機械的でなく手仕事の温かみの線が好感が持てる。「自然界・万物の調和」佐久間 恭子 上下たて横の色柄が微妙に変化し真中の織物が二重に波打ち、平板になりがちな作品に気を入れ生命感を出している。

新人賞は四人、「花香る春庭」柳 直子、「こもれば」佐々幸子、「明かり窓」田村 まゆみ、「June Bride・・・永遠の幸せ」児玉 訓世、どの作品もしっかりとした仕事である。学生賞は一人。「あうん～祈りの先へ蘇る藤枝の虎」藪崎 理恵 虎の人形それぞれで、今後干支も考えたらおもしろいと思います。

第55回創作手工芸展 受賞作品



文部科学大臣賞
孟冬
 (津軽こぎん刺し)
 浜島 亜由子

この度は文部科学大臣賞に選出いただき大変光栄に存じます。

「孟冬」とは陰暦の10月の別称で、冬の始まりを表します。

今回の作品では、やがて来る長く厳しい冬を越える強さとその先に訪れる春への想いを、津軽こぎん刺しの伝統的な模様で表現しました。津軽こぎん刺しを高く評価して頂けたことを大変嬉しく思っております。

有難うございました。



東京都議会議長賞
白と黒
 (帽子)
 松本 由伎子



大妻コタカ賞
イスラエルの窓
 (遊佐刺し子)
 桜庭 あい子



日本手工芸作家連合会会長賞
しばれる夜
 (津軽こぎん刺し)
 渡部 晶子



審査委員長賞
華やぐ白い花々
 (ハーダンガー刺繍)
 加藤 理香



奨励賞
**牡丹と孔雀の
 コラボレーション**
 (手描友禅)
 猪股 洋子

第55回創作手工芸展 受賞作品



佳作
WARABE FANTASY
(シャドーボックス)
福田 桜



佳作
森の精霊
(フラワーデザイン シェーネアルバイテン)
吉田 麻利子



佳作
妖精たちの囁き
(藁で作った造花)
藪本 一翠



新人賞
花香る春庭
(パッチワークキルト)
柳 直子



新人賞
こもれび
(こぎん刺し)
佐々 幸子



佳作
夜の帳
(漆工芸)
飯塚 貞子



新人賞
June Bride・・・永遠の幸せ
(アメリカンフラワラー ディップアート)
児玉 訓世



新人賞
明かり窓
(津軽こぎん刺し)
田村 まゆみ



学生賞
あうん〜祈りの先へ 蘇る藤枝の虎
(練・木目込み人形 染色)
薮崎 理恵

●第55回創作手工芸展の開催並びに授賞式のご報告

第55回創作手工芸展は、2019年に開催された第52回展の後に世界中に蔓延した新型コロナウイルスの影響で東京都美術館での開催が見送られることとなった第53回展・54回展から数えて3年目の2022年5月29日から6月4日までの会期で、恒例の東京都美術館を展示会場として無事開催の運びとなりました。

その背景には、かかる逆境の中にありながらも何とかして手工芸作品の発表の場を絶やすことなく維持し続け、人々を感動させる優れた作品の一つでも多く発表していくことで「創作手工芸世界の魅力」を多くの人々と共有し続けていきたいとの会員の皆様やご関係者各位の熱い思いがあったことは申すまでもありません。

今、改めて振り返れば、2021年に会場での密な接触を避けつつそれぞれが精魂を傾けて制作された作品を発表できる場として設営・公開された「誌上作品展」という試みがコロナ禍という逆境下で気高く開花したことで、3年ぶりの東京都美術館での「第55回創作手工芸展」には数多くの力作が出品され、開催期間中のご来場者総数が2200名に及ぶという形で結実したことに深い感懷を覚えます。

会期最終日の前日にあたる6月3日（金）の午前11時半から上野公園内の会場の施設において令和4年度の免状授与式ならびに第55回創作手工芸展受賞者表彰式が執り行われ、特別賞、学生賞、新人賞、技術賞、佳作 東京都議会議長賞の各賞受賞者表彰が行われたあと本年の文部科学大臣賞受賞者の発表が行われ、会場の雰囲気は頂点に達しました。

最後にご来賓代表のご挨拶と審査委員長の大矢 紀先生からのご講評を拝聴し、恒例の文部科学大臣賞受賞者による受賞者代表謝辞がご披露されて3年ぶりの授賞式典は目出度くお開きとなりました。



表彰式



ギャラリートーク



会場風景

●チャリティバザーの報告

コロナ禍での開催のため縮小して行いました。売上金の一部を、ウクライナへの人道支援金として寄付いたしました。ご協力いただきました皆さまにお礼申し上げます。

●特別作品展示

創作手工芸展では、以下に該当する作品を特別作品展示という形で公開しています。

特別作品展示とは

- 1 自身の過去の作品で、優れたものや受賞した作品
- 2 ご家族で手仕事が好きで多く残された思い出多い作品
- 3 友人、知人で手芸が得意で筆筒などに眠っている作品
- 4 手芸教室で学んだ時の恩師の作品
- 5 その他、手工芸に関する作品

皆様やご友人の所蔵されている作品を発掘して展示することは、会員や手工芸愛好家にとって大いに参考になるという点で関心が深く、かつ貴重な機会となるものでございます。今後もこの企画を継続してまいりたいと考えておりますので、皆様のご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

なお、本展へのご出品作品は一般公募作品とは異なり審査の対象とはなりません。



特別作品展示風景

お知らせ

特別展示1 沖縄の織物

沖縄本土復帰50年を記念して、沖縄の織物—久米島紬の反物、昔の着物を現代の女性に合う着丈に工夫し仕立て直した芭蕉布の長着・宮古上布の着物の展示を行いました。

泥染め久米島紬反物

久米島は日本の紬発祥の地、沖縄本島・奄美大島を経て北上し全国に伝えられました。反物は、重要無形文化財「久米島紬」のブランド紬緋技法を守るための厳しい検査を受けます。



沖縄の織物展示風景

新しく生まれ変わる 喜如嘉 芭蕉布長着

芭蕉布は、沖縄特産の糸芭蕉の繊維を織った布で、昔から庶民のふだん着として家庭で盛んに織られていました。芭蕉布の産地として知られていた大宜味村喜如嘉村の平良敏子（重要無形文化財保持者・人間国宝）らの情熱と努力で復活させ、村の婦人たちの共同作業で生産技術が受け継がれました。

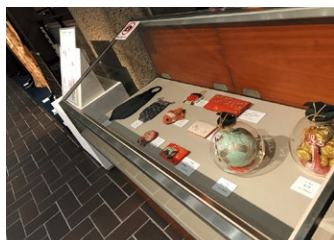
新しく生まれ変わる 宮古上布着物

宮古上布は日本の四大上布の一つ、透明感とつややかさを兼ね備えた極上の苧麻織物。

仕立て直した着物は状態の良い古い宮古上布を丁寧に処理し、重要無形文化財砧打ち継承者、砂川猛氏による再砧が施されています。

展示作品協力 仕立て やまもと工藝 山本秀司氏

特別展示2-1 大妻女子大学博物館所蔵作品



大妻女子大学博物館所蔵作品展示風景

第55回創作手工芸展では、大妻学院創立時の貴重な手仕事作品（ビン細工、刺繍、ビーズ織）の一部を大妻女子大学博物館から借用して特別展示いたしました。

大妻コタカは「お細工物新書」（昭和2年発行、金星堂刊）の中で「手芸というものは無味乾燥なものではない。

手先を敏捷に働かせ、僅かな時間を無益に過ごさない習慣を養成し、精神を統一するために最良の方法である。また廃物（残布等）利用という上からも袋物の製作はこの上ないものである。」と語っています。（一部改編）

展示作品

ビン細工	豊年俵・御殿毯 観桜（公益財団法人日本手工芸作家連合会「創立50周年記念誌」参照）
日本刺繍	紅塩瀬地桜花御所車図財布・白塩瀬地梅花図刺繍宮迫・紅色縮緬地梅花模様金糸刺繍紙入れ
ビーズ織り	手提げ・巾着
守り袋	這人形・魚・赤顔童（大妻女子大学博物館 所蔵品選集2016 参照）

特別展示2-2



新聞掲載記事展示風景

大妻女子大学博物館所蔵作品と共に同博物館所蔵の貴重なドレスが新聞に掲載された記事をパネル展示しました。

大妻女子大学名誉教授で（公財）日本手工芸作家連合会副会長（現顧問）の石井とめ子先生が調査研究・修復・復元に当たられました。

元閑院宮春仁王妃直子の大礼服トレーンの他に、響きあう東西の美、「鹿鳴館の華」鍋島栄子が着用した異彩を放つ小袖地夜会服。いずれも「よみがえる明治のドレス」のタイトルで東京新聞2022年2月25日と4月26日朝刊に掲載



QRコード2/25



QRコード4/26

- 2/25 <https://www.tokyo-np.co.jp/article/162174>
- 4/26 <https://www.tokyo-np.co.jp/article/173924>

●サステイナブル ファッション

公益財団法人日本手工芸作家連合会評議員
(安方クリニック)

蔵 方 宏 昌



日本で家庭から手放される衣服は年間約75万トン。そのうち、再利用やリサイクルされるのは約34%。残り約66%は焼却・埋め立て処分されるという。焼却・埋め立て処分にはCO₂排出量の増大という環境への負荷が問題となっている。

ファッション業界も動き出し、2050年までに温室効果ガス排出量実質ゼロを目指す政府の方針に合わせて、不要になった衣類などを焼却・埋め立て処分ゼロにする取り組みを始めた。

無印良品は古着の回収ステーションを作り、集めた古着をリサイクル企業に渡し、再生する。再生の仕方は多様である。

古着を糸に戻してから、いろいろな布製品に織ったり、古着を洗って染色しなおして着る。着物や洋服などの柄を活かして、鞆や小物入れ、シャツやマフラーなどに再構成する。

衣類の素材として、廃棄されるバナナの茎、パイナップルの葉、漁網、ヨットの帆などを用いる。染色も廃棄される野菜、抹茶、ワインなど化学薬品を使わず、自然に優しいものを使う。

近年、気候変動で干ばつとなる地域が増え、農作物に影響が出ている。2000年から20年間で干ばつは29%増加しているという。貴重な水資源を節約し、廃水を汚さないために、染色法として電気分解装置を用いることも行われている。

ファッション業界では、地域環境を壊さず美しい地球を未来の世代に伝える持続可能なファッション (Sustainable Fashion) の取り組みがおこなわれている。

個人でできる方法を消費者庁は (1) バザー、フリーマーケットで古着を購入 (2) 売れ残り在庫販売での購入を検討 (3) 家族や友人どうしで着まわす (4) 回収サービスの利用、を例としてあげている。

衣類の中で一番粗末に扱われるのが靴下。2足3足が1,000円で買えるためか、片足に穴が開いたりすると捨てられることが多い。

私は捨てることをしなかったが、物を磨いたりするのに使えると思い、洗って箱に入れておいた靴下が30足程出てきた。10足程縫って履き、大きく破れたりしているのは、足首のところで切断し、脛の部分をサポーターとして使っている。薄くて伸縮性があるので、膝の絆創膏押さえには市販のサポーターより屈伸してもずれにくく具合が良い。

(図) 足の部分は靴や金属磨き等に使っている。



(図) 靴下で作った膝のサポーター

【プロフィール】東京都大田区生まれ 昭和大学医学部医学科卒 産婦人科助手 厚生年金病院産婦人科医長を経て安方クリニック開設現在に至る。順天堂大学医史学研究室入室 医大で医学史、看護学部、医療専門学校で医学概論、外科学を講義。学会活動多数。医療関係、鐘馗像、カルタ等多くの資料収集、群馬県医師会資料館・津和野町立旧畑迫病院展示室へ展示資料提供・監修を行っている。

会員だより

●「教授資格」免状を取得して アトリエReoアート教室(シャドーボックス) 主催 石田則子



免状を取得して

この度は有り難うございました。
入会するきっかけは、様々な分野の技術、最前線で活躍する技能者の作品を目の当たりにし、「ものづくりの文化」を絶やさないパワーを感じたこと、そして、大胆な発想で生き生きと作品を表現することができると感じ入会致しました。資格の階段を登り、教授免状まで取得させて頂きました。
資格取得は、自分のステップアップにつながり進む力にもなります。
基本の「気」を大事に作品を創り、観てくださる方の心に熱いもの、忘れられないインパクトを残せるような作品を追い求めていきたいと思ひます。
取得に恥じないよう、これからも努力と研鑽を積み、後進の育成に努めていく所存でございます。

●「助教授資格」免状を取得して シャドーボックス教室アートコテージ 福田桜



表彰式 免状取得

この度は助教授のお免状を賜り、ありがとうございます。
私は小学生から父の影響でパソコンを扱い、大学では理学部情報科学科で学びました。就職は当然のようにITの道へ進み、パソコン漬けな日々でした。転職が訪れたのは32歳のときです。夫のアメリカ赴任同行で会社を退職。幼子2人と夫の出社を見送るだけの日々の中で見つけた潤いが手工芸でした。制作に没頭してはや10年、今に至ります。
私は美大出身のような生粋の芸術家ではありません。それでもこの10年間一心に手工芸に打ち込み、お免状という形で認めていただきました。これからも手工芸を楽しみながら邁進してまいりたいと思ひます。

●活動報告 作品展のご案内

*梅支部 福岡県

第26回手作りフェア in 九州 会期：2023年2月 会場：マリンメッセ福岡（予定）

*猪股洋子 岡山県

猪股洋子と創作手描友禅華の会記念展

会期：2022年10月3日～8日 会場：長泉寺 玉佛堂

会期：2022年10月18日～23日 会場：NHK高松放送局1F「ふれあいギャラリー」

*リビエール教室 フラワーデザイン 東京都

2022自然の恵みを受けて 展示会

会期：2022年10月18日～10月20日 10:00～17:00 (16:30入場終了)

会場：東京堂CFL Store flent 3F (旧アーチス館3F)

公開講座 シェーネアルバイテン体験講座 装飾屏風・唐草花七宝

参加費 5,800円(教材込み) 同会場隣接フロアー

10月19日(水) 11月5日(土) 10:30～12:30 14:00～16:00

*富澤千寿 北海道

ボビンレース展「GIFT」ようこそS&Lボビンレース展specialへ

会期：2022年6月27・28・29日 7月4・5・6日

会場：北海道北広島市黒い森美術館

*福田桜 神奈川県

第64回秋田県美術展覧会(県展) 出展

会期：2022年6月24日～6月29日 会場：秋田県立美術館 アトリオン

第11回シャドーボックス展 出展

会期：2023年1月26日～2月4日 会場：国立新美術館



華の会作品展 DM



ボビンレース展 DM

*アトリエ・Reoアート教室 石田則子 千葉県

シャドーボックス作品展 会期：2022年4月1日～5月12日

会場：順天堂東京江東高齢者医療センター

シャドー展 会期：2022年10月29～30日

会場：昭和学院短期大学（中止になりました）

シャドー展 会期：2022年11月10日～11月13日

会場：スペース宝石（延期になりました）



シャドーボックス作品展

*松岡たか子 ボビンレース 東京都

1) “Tokyo世界展巡回展 in FRANCE@”

会期：2022年7月19日～7月24日 会場：イヴリーヌ県ランブイエ市他

主催：JIAS日本国際美術家協会 欧州美術クラブ

特別協賛：サロン・ド・トヌ協会（フランス）

2) 日本・フランス現代美術世界展

会期：2022年8月11日～8月21日 会場：国立新美術館3A、B室 本展推薦部門

●講習会

手工芸に関する 調査研究、知識・技術の普及・向上 を目的とした教育活動の一環として毎月第2土曜日に各種講習会（年10回）を開催しています。場所：京橋 手芸の越前屋ビル8F

*2021年4月～2022年3月

（第8回白糸刺繍、第9回ハイビスカスのカットワークは中止）

第5回 R3年10/9 松本志津美

第7回 R3年12/11 池田節子

スモッキング刺繍のクリアボーテ

水引でつくるミニ正月飾り

第6回 R3年11/12 佐久間恭子

第10回 R4年3/12 神山康子

可愛い木の実のXmasリース

楽しい柄布を張って楽しむカルトナージュ



講習会風景

*2022年4月～2023年3月（第3回英国刺繍は中止）

第1回 R4年4/9 松本志津美

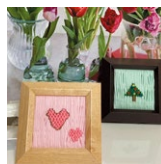
初めてのピクチャースモッキング

第2回 R4年6/11 小俣葉子

シャトルで編むビーズネックレス

第4回 R4年9/10 石田則子

シャドーボックスで作るクリスマス



第1回 作品



第2回 作品



第4回 作品

■講習会ご案内・予定

第5回 R4年10月8日(土)

ブラックワークのブローチ

内田桃子

越前屋ビル8F

第6回 R4年11月12日(土)

木の実もりもりXmasリース

佐久間恭子

越前屋ビル8F

第7回 R4年12月10日(土)

正月飾り

池田節子

越前屋ビル8F

第8回 R5年1月24日(火)

サシェ

内田桃子

株)クローバー

第9回 R5年2月11日(土)

帽子(アップサイクル)

松本由伎子

越前屋ビル8F

第10回 R5年3月11日(土)

カルトナージュ

神山康子

越前屋ビル8F

●オンライン講習会の試み

事務局ではオンラインによる講習会を実現可能にするべく、準備を行っております。今暫くお待ちください。

●第3回作品展示チャリティ販売会のお知らせ

会場：手芸の越前屋ビル8F

コロナ禍の為2021年、2022年と中止しておりました「作品展示チャリティ即売会」を下記日程で開催予定です。（但し、コロナの感染拡大状況により中止する場合があります）

2023年1月14日(土) 11:00～16:00 15日(日) 11:00～13:00

即売会は作家所蔵の織物・アクセサリー・刺繍・刺し子など小作品が出品されます。お買い求めやすい価格で販売いたしますのでご来場、ご協力をお願い致します。（売り上げの一部はウクライナ支援に寄付させていただきます）

●(公募) 第56回創作手工芸展のご案内

【会 期】 令和5年5月28日(日)～6月4日(日)

【会 場】 東京都美術館 ギャラリーC

【応募期間】 令和5年2月15日(水)～5月6日(土) ※小作品展(A3サイズ以下)を開催する予定です。
会員の皆様には後日詳細を郵送いたします。ホームページへの掲載も行います。

・ギャラリートーク：開催6月1日(木) 13:30～14:00

「チャリティーバザー」同時開催

第56回創作手工芸展に於いてチャリティーバザーを開催いたしますので、会員の皆様のご参加をお待ち申し上げます。

●令和4年度後期資格審査のお知らせ(普通科・高等科審査のみ行います)

令和4年11月14日(月) 審査、11月7日(月) 審査申込み締切日

●令和4年度資格免状取得者(令和4年5月)

資格名	資格者氏名	科 目	資格名	資格者氏名	科 目
講 師	小 川 紀代美	フラワーデザイン・シェーンアルバイテン	講 師	佐 々 千鶴子	遊佐刺し子とパッチワークのコラボレーション
講 師	坂 本 志寿子	フラワーデザイン・シェーンアルバイテン	講 師	齋 藤 文 子	遊佐刺し子とパッチワークのコラボレーション
講 師	佐 藤 正 子	遊佐刺し子とパッチワークのコラボレーション	講 師	加 瀬 由美子	シャドーボックス
講 師	富 塚 玲 子	遊佐刺し子とパッチワークのコラボレーション	助教授	福 田 桜	シャドーボックス
講 師	鞠 子 京 子	遊佐刺し子とパッチワークのコラボレーション	教 授	石 田 則 子	シャドーボックス

●資格を取得して、ステップアップしてみましょう

当連合会では、手工芸教育の普及発展を目的として、手工芸指導者の養成教育の一環として資格認定・免状授与を行っております。

資格取得は、普通科、高等科(同時取得可) ➡ 1年研修 ➡ 講師資格 ➡ 2年研修 ➡ 助教授資格 ➡ 2年研修 ➡ 教授資格 が得られます。取得後は、指導者として様々な手工芸教育の場で広く活躍できる可能性が待っています。

あなたもチャレンジして一生の宝を見つけてみましょう。

●新入会員紹介(令和3年10月～令和4年9月、敬称略、5名)

坂本 志寿子(神奈川県) 内海 麻耶(東京都) 柳 直子(兵庫県) 城 京子(愛知県)
杉野 香代美(三重県)

●理事の紹介 令和4年度の役員はホームページに公表しています。

●令和4年度ご寄附者 2022年4～9月(50音順・上:団体/下:個人、カッコ内は寄附金口数;5千円単位)

第55回創作手工芸展チャリティー有志(10)

石井とめ子様(10)、海老澤光夫様(2)、片山理恵子様(6)、佐久間恭子様(4)、花村邦昭様(14)
(ご芳志をいただきまして厚く御礼申し上げます)

●次回発刊予定のご案内

次回 SOUSAKU 209号(創作手工芸)の発刊は令和5年10月を予定しております。

●表紙作品：孟冬(津軽こぎん刺し) 浜島 亜由子

編集後記 -----

当連合会の運営は会員の皆様からの会費、ご寄附により支えられています。手工芸の世界に関わっている皆様、愛好家の皆様、これからご支援のほどお願い申し上げます。

発行日/2022年10月吉日

発 行/公益財団法人日本手工芸作家連合会
〒101-0052

東京都千代田区神田小川町3-6-10

MOビル407号室

TEL 03-5282-5141 FAX 03-5282-5140

E-mail: info@syukogei-sakka.or.jp

URL http://www.syukogei-sakka.or.jp/